

旅行取扱状況の概観(平成19年8月分)

海外旅行の取扱額では、団体旅行は、一般団体が取り扱い好調で前年実績を大幅に超えたが、好調に推移していた学生団体の取り扱いが落ち込み、合計では前年並の実績に留まった。企画旅行は、ホリデイの取り扱いが伸び悩み、5ヶ月連続の前年比マイナスと低迷が続いている。一方、個人旅行は、夏休みの需要を取り込み3ヶ月ぶりの前年比プラスと好調。海外旅行合計は、前年比100.1%と4ヶ月ぶりに前年実績を上回った。

国内旅行の取扱額では、団体旅行は、一般団体が取り扱い堅調で前年実績を上回り、学生団体も取り扱い好調で大きく前年実績を上回ったため、合計では4ヶ月連続の前年比プラスと好調に推移した。企画旅行は、メイトの取り扱いが好調で、合計では3ヶ月連続の前年比プラスと好調を継続。個人旅行では、航空券は前年を超えたが、JR券、宿泊券の取り扱いが伸び悩み、合計は前年実績を下回る結果に終わった。このため、国内旅行合計は、前年比105.3%と前月に続いての前年比プラスと堅調に推移した。

外国人旅行は、団体、個人共に取り扱い堅調で、前年比102.5%と前月に続いて前年実績を上回った。

この結果、8月の総取扱額は前年比103.2%と4ヶ月ぶりに前年実績を上回った。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体は、取り扱い件数が増加し、前年実績を大幅に超え4ヶ月ぶりの前年比プラス。一方、学生団体は、修学旅行外の取り扱いが低調で、4ヶ月ぶりの前年比マイナスと明暗を分けた。団体の方面別取り扱いでは、韓国、ヨーロッパが好調であった。

(2) 企画旅行

ホリデイの取扱いは増加に転じたが、取扱額前年比97.2%、取扱人数前年比95.7%と共に前年実績に届かず、取扱額は5ヶ月連続の前年比マイナスと低迷が続いている。ホリデイの方面別取り扱いでは、近場の韓国、台湾、およびインドネシアが前月に続いて好調で、ロングポジションではハワイが前年を上回った程度であった。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体は、イベント関係の取り扱いが好調を継続し4ヶ月連続の前年比プラスと堅調に推移。学生団体も修学旅行外の取り扱い好調により3ヶ月ぶりに前年比プラスとなった。

(2) 企画旅行

メイトは、取扱額で前年比106.3%、取扱人数で前年比102.4%と夏場の需要を取り込み、前月に続いての前年比プラスと好調に推移した。商品別の状況では、沖縄が好調を継続、北海道、九州、東京地区商品も取り扱い堅調であった。

(以上)